

令和8年度 新課程対応様式（農業）

教科	農業	科目	農業と環境	単位数	4
学年	1年	教科書	農業と環境		
学科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 農業の社会的な役割を理解し、エダマメやイネなどの栽培を通して、農業生物の成長と環境の関わりを科学的に理解し、基礎的な技術を習得します。 ② 農業に関する課題を自ら発見し、プロジェクト学習の手法を用いて、科学的根拠に基づき合理的かつ創造的に解決しようとする実践力を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 農業と環境・農業クラブ活動 2 栽培プロジェクトⅠ（エダマメ・イネ）	・農業学習の特質とプロジェクト学習の進め方について、具体的な事例を通して学びます。 ・学校農業クラブ活動の組織や意義を理解し、クラブ員としての自覚を養います。 ・エダマメの播種から収穫を通して、作物の生理・生態的特性を学びます。 ・イネの形態的特徴を観察し、田植え実習を通して地域環境と水田農業の関わりを理解します。
2	3 栽培プロジェクトⅡ（サツマイモ・クリ）	・サツマイモの栽培管理やクリの収穫実習を通して、収穫技術と品質管理を習得します。 ・安全・安心な食料供給のための生産工程管理（GAP）について学びます。
3	4 農業技術検定と学習のまとめ	・1・2学期の実習を振り返り、農業の基礎知識（栽培、家畜、経営、環境）を体系的に整理します。 ・農業技術検定の合格を目指し、専門的な用語や技術体系の定着を図ります。
課題	① 通常課題…授業内容の復習ワークシート、および農業技術検定の模擬演習を行います。 ② 夏休み課題…エダマメの収穫・活用レポート、およびイネの生育観察記録を作成します。 ③ 冬休み課題…サツマイモやクリを用いた地域農産物の活用方法に関する調べ学習を行います。 ④ 学年末課題…1年間のプロジェクト学習の総括レポート、および農業技術検定の振り返りを行います。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 農業と環境・農業クラブ活動	農業の特質や、農業クラブの組織・活動内容を正しく理解している。	農業クラブ員としての自覚を持ち、自身の役割や活動の意義を適切に表現できる。	農業クラブ活動の諸行事に興味を持ち、積極的に参加しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・ワークシートの記述内容 ・振り返りノート	・活動への参加状況 ・提出物の期限遵守

2 栽培プロジェクト Ⅰ（エダマメ・イネ）	エダマメとイネの成長の仕組み、田植えの基本技術を習得している。	生育状況を観察・記録し、環境の変化が生物に与える影響を科学的に考察できる。	動植物を慈しみ、粘り強く栽培管理や観察実習に取り組んでいる。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・観察スケッチ ・栽培記録（データ）	・実習への取組態度 ・道具の適切な扱い
3 栽培プロジェクト Ⅱ（サツマイモ・クリ）	サツマイモやクリの収穫技術、収穫物の管理・利用法を理解している。	収穫物の品質を評価し、安全で効率的な農作業の手順を論理的に判断できる。	他者と協働して収穫実習に取り組み、課題解決に向けた情報の整理を行っている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・収穫調査レポート ・ワークシート	・協働作業への貢献度 ・実習の準備・片付け
4 農業技術検定と学習のまとめ	農業技術検定に必要な農業全般の基礎的・基本的な知識を習得している。	習得した知識を関連付け、農業に関する諸課題の解決策を多角的に表現できる。	検定合格に向けて自ら目標を立て、計画的に学習を継続している。
評価方法	・定期考査 ・模擬テスト	・自己評価シート ・まとめのレポート	・課題の作成状況 ・学習ノートの整理
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において A・B・C の3段階で評価を行い、学期末および学年末にはこれらを総括して5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	総合実習	単位数	1
学 年	1 年	教科書	なし		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 栽培プロジェクトを通して、エダマメやイネなどの成長過程を科学的に観察し、生物の生理的特性を理解するとともに、作物の生育段階に応じた適切な管理や田植え等の基礎的な技術を体系的に習得します。 ② 実習での調査データを基に環境が生育に与える影響を分析する力を養い、安全に配慮した農作業の手順を正しく判断して、地域農業の課題を合理的かつ創造的に解決しようとする実践的な態度を育成します。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 栽培プロジェクトⅠ（エダマメ・イネ）	- エダマメの播種、定植、追肥などの管理実習を行い、初期生育の仕組みを習得します。 - イネの苗の特性を観察し、手植えによる田植え実習を通して、水田農業の基本技術を学びます。
2	2 栽培プロジェクトⅡ（サツマイモ・クリ）	- サツマイモのつる返しや収穫実習を行い、貯蔵器官の形成と品質の関係を学習します。 - クリの収穫・調製実習を通して、果実の成熟判断と安全な収穫技術を習得します。
3	3 プロジェクトの総括と分析	1・2学期の栽培データの整理・図表化を行い、気象環境が生育に与えた影響を科学的に分析します。 - 栽培管理の反省・評価を行い、次年度のプロジェクト学習に向けた改善案を考察します。
課題	① 通常課題…実習記録の整理、および栽培データの記録。 ② 学年末課題…1年間の実習を通じた報告レポート作成。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 栽培プロジェクトⅠ（エダマメ・イネ）	エダマメとイネの成長の仕組み、播種や移植の基本技術を習得している。	生育状況を正確に観察・記録し、作業の適期を科学的に判断できている。	動植物を慈しみ、粘り強く栽培管理や田植え実習に取り組んでいる。
評価方法	- 定期考査、小テスト - 実技検定	- 実習記録の記録 - 観察スケッチ	- 実習への取組態度 - 道具の適切な扱い
2 栽培プロジェクトⅡ（サツマイモ・クリ）	サツマイモやクリの収穫・調製技術、品質管理法を習得している。	収穫物の品質を客観的に評価し、安全で効率的な作業手順を選択できている。	他者と協働して収穫実習や事後学習に意欲的に取り組んでいる。
評価方法	- 定期考査、小テスト - 実技検定	- 収穫調査レポート - ワークシートの分析	- 協働作業への貢献度 - 後片付けの状況

3 プロジェクトの総括と分析	プロジェクト学習の評価・反省の方法や、データの整理手法を理解している。	栽培結果を気象環境等と関連付けて論理的に分析し、改善策を表現できている。	自身の学びを真摯に振り返り、次なる課題解決に向けて探究しようとしている。
評価方法	・ 学年末考査 ・ 小テスト	・ 生育分析レポート ・ 自己評価シート	・ 課題の提出状況 ・ 学習ノートの整理
「総合実習」は各単元の到達度に基づき、ＡＢＣの３段階で評価を行います。 各学期末にこれらを総括し、５段階で最終評価を行います。評価に当たっては、実習記録の正確な記述や実習への積極的な参加姿勢を重視します。			

教 科	農 業	科 目	農業と情報	単位数	2
学 年	1	教科書	農業と情報（実教出版）		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指します。 ① 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けます。 ② 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養います。 ③ 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	第1章 私たちの生活と農業の情報化 第2章 社会を支えるコンピュータ	- 私たちの生活における情報とメディアの特徴を学習し、適切な情報活用について理解を深めます。 - 情報社会とモラルについて学習し、情報リテラシーを身に付けます。 - 農業を支える情報を学習し、農業に応用できる情報を考える能力を養います。 - コンピュータの物理的な構成を理解します。また、データや情報の表現方法を理解することで適切なソフトウェアを活用する能力を身に付けます。 - 情報通信ネットワーク、インターネットに関する学習を行いその特徴を理解します。 - 情報セキュリティに関する学習を行い、コンピュータウイルスやその他の脅威に対する防御能力を身に付けます。
2	第3章 コミュニケーションと情報デザイン 第4章 スマート農業への展望	- 正確な情報収集と記録の重要性を学習し、ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。 - 近年の情報技術の発展による自動管理システム、ドローンの利用、その他自動化システムの仕組みを理解します。 - スマート農業の仕組みの理解と基本的なシステムの設計やプログラミング、人工知能について学びます。
3	第5章 農業情報の分析と活用 第6章 農業学習と情報活用	- 農業情報とはどのようなものか理解します。 - 農業の各分野における情報の種類や特徴を学び、情報の収集方法や分析・活用方法を学びます。 - プロジェクト学習及び発表等で必要となる情報処理能力を身に付けます。
課題	①通常授業に関する課題（タイピング練習、小テスト、調べ学習等） ②夏季休業中課題（情報セキュリティに関するレポート作成） ③冬期休業中課題（ソフトウェア活用技術に関するレポート作成、検定試験対策等）	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 私たちの生活と農業の情報化	情報化する社会において情報とメディアの特徴を理解し、情報を円滑に活用していく知識を身に付け、情報社会におけるモラルを身に付けている。また、農業を支える情報の存在を理解できている。	適切なメディアの活用方法を判断することができる。また、情報モラルを順守することの重要性を思考し、情報リテラシーを理解した上で自らの意見を表現している。農業を支える情報の存在を考え表現している。	情報化社会の進展と情報の意義に関心を持ち、農業と情報技術との関わりについて探究しようとしている。
第2章 社会を支えるコンピュータ	コンピュータの基本的な構成を理解している。また、情報通信ネットワークやインターネットの特徴を知り、情報セキュリティに留意した情報活用技術を身に付けている。	コンピュータの基本構造を理解した上で、情報通信ネットワークやインターネットにおける留意点を思考し、判断できている。情報セキュリティを理解し、場面に応じて判断できる。	コンピュータの構造について主体的に理解しようと努め、情報モラルについて科学的に探究しようとしている。
第3章 コミュニケーションと情報デザイン	正確に情報を収集する方法を理解し、情報の受発信に関する技術を身に付けている。各種ソフトウェアの活用方法を理解し、技術を身に付けている。	正確な情報収集の技術や情報リテラシーについて考え、適切な手段の選択と表現ができる。また、場面に応じた適切なソフトウェアを判断することができる。	情報の取捨選択と実際の情報活用技術の習得を目指し、積極的に探究しようとしている。
第4章 スマート農業への展望	農業における自動化システムの重要性を理解し、人工知能を活用した、これからの農業の展開について理解することができる。また、システム設計やプログラミングの基本的な技術を理解できている。	農業の現状と課題について考え、これからの農業の在り方や方向性について思考し、農業従事者の負担軽減のために必要な方策を判断することができる。	現在の日本の農業における現状と課題に対して、情報技術を活用した解決について積極的に探究しようとしている。
第5章 農業情報の分析と活用	農業の各分野で応用できる情報について理解し、情報の分析技術を身に付けている。	農業の各分野における情報活用の方法について思考し適切な活用の方法を判断できている。	農業の各分野における情報活用に関して積極的に探究しようとしている。
第6章 農業学習と情報活用	プロジェクト学習や研究発表に必要なコンピュータの機能や方法を理解し活用する技術を身に付けている。	プロジェクト学習で活用するソフトウェア等を理解し、状況に応じて適切に判断し表現できている。	プロジェクト学習に必要な情報活用技術について主体的に考え、探究しようとしている。
評価方法	・小テスト、定期考査 ・ワークシートの記入内容 ・実技への取組等	・小テスト、定期考査 ・レポート ・発問への対応等	・課題、レポート ・ノート記入 ・発問への対応等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B C の3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	特用林産物概論	単位数	2
学 年	1年	教科書	特用林産物概論（伊予農業高校）		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 特用林産物の主な特徴と生産について理解します。 ② 身近なところに特用林産物があることを理解します。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 特用林産物とは	・森林から生産される用材以外のものに関心を向けて理解します。
	2 山菜類	・山菜の名称と分類や保存方法を理解します。
	3 キノコ類	・キノコの特徴や生活環、生産状況を理解します。
2	4 樹実類	・樹実類の種類について理解し、ゆずの加工実習を行い、特産品の開発を考えます。
	5 竹の利用	・竹の特徴や種類を理解し、竹ほうき作りをとおしてその技術を理解します。
	6 薬剤の利用	・薬剤の安全な使い方について理解します。
3	7 木炭の利用	・竹製品と竹文化を理解し、その製造原理と方法について考えます。 ・白炭と黒炭の特性を理解します。 ・鑑賞炭づくりを体験します。
課題	① ノートをまとめます。	
	② 夏休み課題レポートを提出します。	
	③ 実習により作品を作ります。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 特用林産物とは	特用林産物の役割と動向について理解できている。	特用林産物の名称と特徴、その活用方法が理解できる。	森林から生産される用材以外のものに関心を持ち、特用林産物との関わりについて探求しようとしている。
2 山菜類	山菜の名称と分類や保存方法について理解できている。また、山菜の利用、栄養、健康について理解できている。	山菜の名称と分類、その活用方法が理解できる。	山菜の名称と分類や保存方法について関心を持ち、山菜の食文化や山菜の利用方法について探求しようとしている。
3 キノコ類	キノコの特徴や生活環、キノコ栽培の歴史や食文	キノコの特徴や生活環、キノコ栽培の歴史や食文	キノコの特徴や生活環、生産状況に関して積極的

	化の知識を理解できている。	化を理解し、自らの意見を表現している。	に探求しようとしている。
4 樹実類	樹実類の種類について理解し、ゆず加工実習を通して、特産品開発の技能・技術を身に付けている。	樹実類の種類について理解した上で、特産品開発に向け思考・判断し、表現することができる。	樹実類の種類について理解しようと努め、ゆずの加工実習を通して、特産品開発に積極的に探求しようとしている。
5 竹の利用	竹の活用方法や特徴、種類についての知識を身に付け理解し、竹ぼうき作りを通して竹活用の技能・技術を身に付けている。	竹の活用方法や特徴、種類について考え、適切な利用方法を選択し、判断することができる。 また、竹ぼうき作りを通して適切な活用方法を判断できる。	竹の特徴や種類について関心を持ち、竹ぼうき作りを通して積極的に竹の活用方法について探求しようとしている。
6 薬剤の利用	農薬や除草剤の種類とその役割、使用技術を身に付けている。	農薬や除草剤の適切な使い方とその安全性について理解し、適切な手段や選択と使用ができる。	薬剤の特徴と適正な使い方について積極的に探求しようとしている。
7 木炭の利用	竹製品と竹文化を理解し、その製造原理や方法を身に付けている。また、白炭と黒炭の特性を理解し、身に付けている。	竹製品と竹文化を考え、適切な竹製品の利用方法を選択し、判断することができる。また、鑑賞炭づくりを通して適切な活用方法を判断できる。	竹製品や竹文化を理解し、製造原理や方法を考え、探求しようとしている。
評価方法	・小テスト、定期考査 ・授業態度	・小テスト、定期考査 ・授業態度、発問への対応等	・課題 ・授業態度、発問への対応 ・実技への取組等等
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B C の3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教科	農業	科目	総合実習	単位数	4
学年	2年	教科書	なし		
学科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 森林の科学的調査、木材加工、キノコおよび特用林産物の栽培技術を体系的に習得し、森林資源を総合的に管理・活用するための実践力を身に付けます。 ② 森林が有する多面的な機能と地域産業としての特用林産物の役割を理解し、安全に配慮しながら合理的・創造的に課題を解決する態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
通年	※4つの班に分かれ、以下の1～4の内容を枚時間ごとに順番に実施します。	
	1 森林調査・実験	・ 毎木調査や森林土壌の分析、林内の環境測定（照度・湿度等）を行い、森林生態系の構造を科学的に把握します。
	2 木工作品制作	・ 木材の性質を理解し、手工具や木工機械を用いて、地域の未利用材等を活用した生活工芸品や家具の設計・制作を行います。
	3 キノコ栽培	・ シイタケ等の原木栽培（伏せ込み・採取）および菌床栽培（環境制御・発生管理）を通して、専門的な生産・管理技術を習得します。
	4 特用林産・林業技術	・ タケノコ、クリ、タラノメ等の特用林産物および自然薯・ショウガの栽培管理に加え、チェンソー等の基本操作と労働安全を学びます。
課題	① 通常課題…毎時間の実習記録に、その時間の観察データや技術的気づきをまとめて提出します。 ② 学年末課題…ローテーション実習で習得した技術を統合し、レポートを作成します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 森林調査・実験	測定機器（輪尺等）を正しく操作し、正確なデータを収集・記録できる。	調査結果から森林の健全性や発達段階を科学的に考察・分析できる。	森林環境に関心を持ち、精度の高い調査を他者と協力して行っている。
評価方法	・ 小テスト ・ 記録簿への記入内容	・ 調査データの分析レポート	・ 実習中の取組状況 ・ 記録簿の記録（振り返り）
2 木工作品制作	木材の特性に応じた加工技術を習得し、安全に工具・機械を扱える。	用途や素材の良さを活かしたデザインを考え、工程を論理的に判断できる。	作品制作に根気強く取り組み、道具の整備や後片付けを適切に行っている。

令和8年度 新課程対応様式（農業）

評価方法	・木工作品の完成度 ・手工具等の操作検定	・設計図・構想図の作成状況 ・作品の製作工程プラン	・道具の手入れ・片付け状況 ・作業への集中度と粘り強さ
3 キノコ栽培	菌の特性に応じた栽培管理（原木・菌床）の基本技術を習得している。	環境条件の変化が収量や品質に与える影響を分析し、管理法を判断できる。	生物（菌）を慈しみ、継続的な観察や環境整備に責任を持って取り組んでいる。
評価方法	・栽培管理記録（データ） ・栽培知識に関する小テスト	・生育・発生状況の考察レポート ・環境制御の判断（ワークシート）	・毎日の観察・管理の継続性 ・栽培施設内の衛生維持態度
4 特用林産・林業技術	各産物の栽培法と、林業機械の安全な操作手順を正しく理解・実践できる。	立地条件に応じた適切な施業時期や栽培方法を、科学的根拠に基づき判断できる。	労働安全の重要性を自覚し、地域資源の育成と活用に意欲的に取り組んでいる。
評価方法	・機械の操作技術審査 ・栽培技術の小テスト	・作業計画・安全管理の提案書 ・地域資源活用レポート	・安全防具の適切な着用状況 ・地域資源への探究意欲
「総合実習」は各単元（ローテーション項目）の到達度に基づき、ＡＢＣの３段階で評価を行います。各学期末にこれらを総括し、５段階で最終評価を行います。			

教 科	農 業	科 目	農業と情報	単位数	2
学 年	2	教科書	農業と情報（実教出版）		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 農業に関する情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連技術を身に付けます。 ② 農業情報の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養います。 ③ 農業に関する情報について主体的に調査・分析・活用できるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 文書の作成と表現	・文書ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。
2	2 データ集計と視覚化 3 データベースシステムとオープンデータ	・表計算ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。
3	4 画像・図形処理ソフトウェアの利用	・画像・図形処理ソフトウェアの活用技術を身に付けるとともに情報の受け手に配慮してまとめることの重要性を理解します。
課題	①通常授業に関する課題（タイピング練習、小テスト、調べ学習等） ②夏季休業中課題（情報セキュリティに関するレポート作成） ③冬季休業中課題（ソフトウェア活用技術に関するレポート作成、検定試験対策等）	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 文書の作成と表現	文書処理ソフトウェアを活用して、農業情報や環境情報を活用する効果的な手法について理解している。	文書処理ソフトウェアに関する基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に関心を持ち、文書作成技術について探求しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・操作実技	・定期考査 ・操作実技 ・発表内容	・課題への取組 ・授業態度 ・発言内容 ・検定への取組
2 データ集計と視覚化	表計算ソフトウェアを活用して、農業情報や環境情報を活用する効果的な手法について理解している。	表計算ソフトウェアに関する基礎的な知識と技術を基に合理的に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に関心を持ち、データ集計や視覚化技術について探求しようとしている。

評価方法	・ 定期考査 ・ 操作実技	・ 定期考査 ・ 操作実技 ・ 発表内容	・ 課題への取組 ・ 授業態度 ・ 発言内容 ・ 検定への取組
3 データベースシステムとオープンデータ	データベースを活用して、農業情報や環境情報を活用する効果的な手法について理解している。	データベース活用に関する基礎的な知識と技術を基に合理的に判断しその過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に関心を持ち、データ処理やデータベース化する知識や技術について探求しようとしている。
評価方法	定期考査、操作実技	定期考査、操作実技 発表内容	課題への取組、授業態度、 発言内容、検定への取組
4 画像・図形処理ソフトウェアの利用	画像・図形処理ソフトウェアを活用して、農業情報や環境情報を活用する効果的な手法について理解している。	画像・図形処理ソフトウェアに関する基礎的な知識と技術を基に合理的に判断しその過程や結果を適切に表現している。	情報機器の操作に関心を持ち、画像・図形処理技術について探求しようとしている。
評価方法	・ 定期考査 ・ 操作実技	・ 定期考査 ・ 操作実技 ・ 発表内容	・ 課題への取組 ・ 授業態度 ・ 発言内容 ・ 検定への取組
内容のまとまりごとに、学習活動の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を統括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	森林科学	単位数	2
学 年	2 年	教科書	森林科学（実教出版）		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 森林の定義や分類を学ぶとともに、樹木の葉の構造や光合成などの生理的仕組みを科学的に理解し、森林生態系を管理するために必要な専門的知識を習得します。 ② 森林の構造発達をもたらす多面的な機能と生活との関わりを正しく認識し、地域の森林課題を科学的根拠に基づいて合理的かつ創造的に解決する実践力を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 森林の定義と多様な姿	・森林の科学的定義と、時代背景による定義の変遷について学びます。 ・更新方法や人手の加わり方による分類（人工林、天然林、天然生林）や、相観による森林のタイプ分けを理解します。
	2 樹木の構造と役割	・樹木の葉の形態や内部組織、気孔の働きなど、個体としての樹木の葉の構造を科学的に理解します。 ・光合成や蒸散作用といった、森林生態系の物質・エネルギー循環を支える葉の生理的特性を詳しく学びます。
2	3 森林の構造と多面的機能	・森林の構造が発達することで発揮される多面的な機能（生物多様性保全、水源涵養、国土保全など）の仕組みを学びます。 ・森林が提供する「生態系サービス」と私たちの生活の関わりについて考察します。
3	4 目標林型と森林の将来	・機能目的に応じた「目標林型」（生産林、環境林など）の設定方法と、地域におけるゾーニングの考え方を学びます。
課題	① 通常課題…各単元の内容に応じた小テストの解き直しや、地域の森林・樹木に関する調べ学習を行います。 ② 夏休み課題…地域の森林調査レポート（身近な森林のタイプ分けや、樹木の葉の観察・スケッチ）を作成します。 ③ 冬休み課題…森林の多面的機能に関する調査レポート（特定の森林が持つ水源涵養や防災などの機能についての考察）を作成します。 ④ 学年末課題…地域の森林課題に対する将来の管理計画（目標林型の提案）を机上で作成し、提出します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1. 森林の定義と多様な姿	森林の科学的定義、成立の背景、更新方法や相観による分類について理解している。	地域の森林を更新方法や構造の視点から正しく分類し、その特性を判断できている。	森林の多様な姿に関心を持ち、地域の森林が成立した背景を主体的に探究しようとしている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・ワークシートの記述内容 ・地域の森林調査レポート	・ノート、ワークシートの記述 ・授業中の発問への応答

2. 樹木の葉の構造と役割	樹木の葉の形態、内部組織、光合成や蒸散作用などの生理的特性を理解している。	葉の形態や生理作用を分析し、森林生態系における葉の役割を科学的に考察できている。	樹木の特性に興味を持ち、葉の観察記録や課題作成に粘り強く取り組もうとしている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・観察スケッチ ・学習レポート	・課題の提出状況 ・授業への取り組み状況
3. 森林の構造と多面的機能	森林生態系の概念、森林の構造発達と多面的機能（水源涵養、国土保全等）の関係を理解している。	森林の構造が発揮する「生態系サービス」が生活環境に与える影響を論理的に表現できている。	森林が果たす役割の重要性を実感し、環境保全に向けた課題を自ら見つけ出そうとしている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・テーマ別レポート（多面的機能の評価） ・ワークシートのまとめ	・授業中の発言・協議への参加 ・レポートの作成状況
4. 目標林型と森林の将来	機能目的に応じた「目標林型」の設定方法や、地域におけるゾーニングの考え方を理解している。	地域の森林課題に対し、科学的根拠に基づいて適切な目標林型や将来の管理方法を提案できている。	地域の森林の将来像について主体的に考え、解決に向けて情報の収集や整理に取り組んでいる。
評価方法	・定期考査 ・課題テスト	・森林管理計画の提案書 ・調査レポート	・ノートの整理状況 ・期日までの課題提出
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において A・B・C の 3 段階で評価を行い、学期末および学年末にはこれらを総括して 5 段階で評価します。			

令和8年度 新課程対応様式（農業）

教科	農業	科目	食用キノコ栽培	単位数	2
学年	2年	教科書	キノコ栽培全科（農文教）		
学科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 食用キノコの栽培・利用方法、用途に関する知識、技術を身に付けます。 ② キノコ栽培に関する課題を発見し、農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を養います。 ③ 食用キノコ栽培について、基礎的な知識と技術が活用できるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 キノコの種類と栽培・利用	・キノコの基礎的な知識を身に付け、人間生活にどのように利用されているのかを理解します。
	2 キノコ栽培と自然条件	・キノコ栽培に適した自然条件を理解します。
2	3 キノコの種類と栽培法の基本	・キノコ栽培がどのように行われているのか理解し、興味・関心と意欲を持ちます。
	4 シイタケ原木栽培	・シイタケの原木栽培の方法を理解し、関連する技術を身に付けます。
3	5 その他の原木栽培	・原木栽培にも種類があることを理解し、栽培管理について科学的・合理的に判断し、生育段階や環境条件に応じた適切な対応をする能力を身に付けます。
課題	① 夏休み課題…キノコかるたの作成 ② 冬休み課題…身の回りに生えているキノコのレポート	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
キノコの種類と栽培・利用	キノコの種類と利用法を理解している。	キノコの種類と利用について考えることができる。	集中して課題に取り組んでいる。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・授業プリント	・授業中の取組状況 ・課題の提出状況
キノコの栽培と自然条件	キノコ栽培に適した自然条件を理解している。	キノコに適した自然条件について考えることができる。	話し合いに積極的に参加できている。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・授業プリント	・授業中の取組状況 ・課題の提出状況
キノコの種類と栽培法の基本	キノコの基本的な知識と技術を身に付けている。	種類ごとの栽培方法を考えることができる。	安全かつ積極的に参加している。
評価方法	・定期考査 ・実習	・定期考査 ・授業プリント	・実習
シイタケ原木栽培	シイタケの原木栽培について基本的な知識と技術を身に付けている。	成長過程に応じて適切な管理ができている。	実習に積極的に参加している。

令和8年度 新課程対応様式（農業）

評価方法	・定期考査 ・実習	・定期考査 ・実習	・実習
その他の原木栽培	原木栽培について基本的な知識と技術を身に付けている。	成長過程に応じて適切な管理ができている。	実習に積極的に参加している。
評価方法	・定期考査 ・実習	・定期考査 ・実習	・実習
内容のまとめりに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	林産物利用	単位数	2
学 年	2 年	教科書	林産物利用(実教出版)		
学 科	特用林産	副教材	なし		

学習目標	① 林産物の加工、利用に必要な知識と技術を習得します。 ② 林産物の特性を理解します。 ③ 林産物の多様な利用を図る能力と態度を育てます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 森林資源の循環利用と 林業・林産業	・光合成によって生産される森林資源が持続的に再生産できる資源であることを学びます。 ・木材には、投入されるエネルギーがプラスチックや金属に比べて少ない材料であることを学びます。・
2	2 木材の構造	・幹は、樹種、樹齢、立地条件などによって、その外形はまっすぐなものから曲がったものまで、その断面は丸いものからそうでないものまで様々である。このような、組織構造の違いを学びます。
3	3 木材の用途	・木材の材料としての特性と、木材が私たちの生活の中でどのように利用されているかについて学びます。
課題	① 定期考査後に訂正をして提出。 ② 製作課題を提出。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
森林資源の循環利用 と林業・林産業	化石資源鉱物資源の枯 渇問題を理解できる。 手鋸の技術やスコヤの 使い方を理解できる。	木材の有効利用に関心 を持ち、二酸化炭素の固 定を理解し、林産業の現 状と課題動向を理解でき る。	正確に墨を入れ、手鋸 や角のみの技術を身に付 けようとしている。
評価方法	・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・発表内容	・発表内容
木材の構造	針や広葉樹の構造を理 解し、木材の実質的な特 性を理解できる。 加工する技術を身に付 けることができる。	木材の物理的、化学的 性質を理解し、木材の用 途と特性との関係を理解 できる。	組木の種類や構造を理 解し、図面を読み取る力 を身に付けようとしてい る。
評価方法	・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・発表内容	・発表内容
木材の用途	乾燥の必要性を理解 し、保存方法と木工の工 作方法を理解できる。 一人一人が考えた加工 ができる。	合理的な加工を考え、 正確に加工できる。	正確な接着を心がけ、 塗装の技術を高めようと している。

評価方法	・ 定期考査 ・ 実技テスト	・ 定期考査 ・ 発表内容 ・ 課題提出	・ 発表内容
内容のまとめりと、学習目標の到達度を基に、各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し成績を算出します。学年末には、各学科の評価により算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

令和8年度 新課程対応様式（農業）

教科	農業	科目	課題研究	単位数	2
学年	3年	教科書	なし		
学科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 特用林産（キノコ、木材加工、特産物栽培等）に関する専門的な知識と技術を深化・総合化し、自ら設定した課題を科学的根拠に基づいて解決する能力を習得します。 ② 地域の森林資源活用における課題を主体的・協働的に探究し、新たな価値の創造や地域振興に寄与しようとする実践的な態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 課題設定	・特用林産分野における現状を把握し、あるべき姿との差から解決すべき問題を抽出して、研究テーマを決定します。 ・先行研究や地域の実態を調査し、研究の目的と仮説を明確にします。
	2 計画立案	・仮説を検証するための具体的な実験方法、調査地点、栽培条件、製作工程などを検討し、年間計画を作成します。 ・必要な資材、予算、安全管理について確認し、効率的な手順を判断します。
2	3 実施	・計画に基づき、実験・調査、栽培管理、作品製作を継続的に実施します。 ・記録を詳細に取り、状況に応じて計画を修正しながら、独自の発想を加えて課題解決に取り組みます。
3	4 まとめ・評価	・得られたデータや成果を分析・考察し、論理的なレポートにまとめます。 ・課題研究発表会を通して成果をプレゼンテーションし、自己評価・相互評価を行います。
課題	① 通常課題…実習の都度、「課題研究記録簿」に調査データや技術的考察、進行状況を整理して提出します ② 研究テーマに関する情報の更新および、中間報告書の作成。 ③ 研究成果のデータ分析と、発表用スライドの構成案作成。 ④ 研究の集大成としての「課題研究報告書（レポート）」の作成。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実験・実習のプロセス	基礎知識・技術が身に付いている。 事前調査や情報の更新ができています。	目的意識、着眼点が良い。 目的に沿った計画を立て、独自の工夫を取り入れている。	自主的、積極的に取り組んでいる。 テーマに興味を持ち、準備や片付けができています。
評価方法	・研究活動への取組 ・小テスト	・記録簿の記述 ・計画書の内容	・実習への取組姿勢 ・提出物の状況

令和8年度 新課程対応様式（農業）

発表・レポート	質疑応答に適切に対応できる。 レポートが論理的にまとめられている。	発表方法やプレゼンテーションに工夫がある。 レポートのまとめ方に創意工夫が見られる。	発表会に主体的に関わっている。 レポート作成や他者の記録に意欲的に取り組んでいる。
評価方法	・発表会での応答 ・最終レポート	・プレゼン資料 ・自己評価、相互評価シート	・発表会への参加態度 ・レポートの完成度
・内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。 ・各学期末の評価を総括し、学年末には5段階で最終評価します。評価に当たっては、特用林産科の専門性をいかに高められたか、およびプロジェクト学習の過程における論理的思考力と探究心を重視します。			

令和8年度 新課程対応様式（農業）

教科	農業	科目	総合実習	単位数	3
学年	3年	教科書	なし		
学科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 専攻分野における高度な知識と技術を体系的に習得し、森林資源の適切な管理と多角的な活用を実践する能力を身に付けます。 ② 地域の特用林産振興や森林保全に関する課題に対し、科学的根拠に基づいて合理的・創造的に解決策を導き出し、他者と協働して実践する態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
通年	※3年生では以下のいずれかの専攻班に所属し、年間を通して専門性を深めます。	
	1 森林調査・環境専攻	・高度な毎木調査、土壌断面調査、環境センシングを行い、森林の健全性や多面的機能を科学的に評価します。
	2 木材加工専攻	・地域未利用材の特性を活かした高度な木工技術を習得し、家具や生活工芸品の設計・製作から製品評価までを行います。
	3 キノコ専攻	・原木・菌床シイタケ等の高度な栽培管理と経営分析を行い、品質向上と安定生産に向けた技術改善を実践します。
	4 特用林産・林業技術専攻	・タケノコ、クリ、自然薯等の多角的な栽培管理と、林業機械（チェンソー等）の高度な操作・安全管理技術を習得します。
課題	① 通常課題…実習の都度、記録簿に調査データや作業工程、技術的考察を整理して提出します。 ② 学年末課題…専攻班での研究成果を「専攻活動報告書（レポート）」としてまとめ、提出します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 森林調査・環境専攻	測量機器や分析機器を正しく扱い、精度の高い森林データを収集できる。	調査データに基づき、森林の発達段階や環境変化を論理的に考察できる。	地域の環境保全に興味を持ち、精度の高い調査を継続的に行っている。
評価方法	- 専門知識小テスト - 記録簿のデータ記録	- 調査分析レポート - 記録簿の考察内容	- 実習への取組状況 - 道具の適切な扱い
2 木材加工専攻	木材の性質を理解し、高度な木工機械や手工具を安全・正確に扱える。	用途に応じた設計図を作成し、素材を活かす工程を論理的に判断できる。	作品の完成度を高めるために、粘り強く製作や道具の手入れに取り組んでいる。
評価方法	- 木工作品の完成度 - 実技検定（操作）	- 設計図・構想図 - 製作工程レポート	- 作業への集中度 - 整理整頓・後片付け

3 キノコ専攻	きのこの生理特性を理解し、高度な環境制御と生産技術を習得している。	生育状況や気象データの分析に基づき、適切な管理時期を判断・表現できる。	生物（菌）を慈しみ、毎日の観察や衛生管理を責任持って継続している。
評価方法	・栽培知識小テスト ・記録簿の管理記録	・生育分析レポート ・収量評価ワークシート	・管理の継続性 ・栽培施設の衛生維持
4 特用林産・林業技術専攻	クリ等の各産物の栽培管理法と、林業機械の高度な操作・保守点検を実践できる。	立地条件に応じた栽培・施業計画を、科学的根拠に基づいて提案できる。	労働安全の重要性を自覚し、安全防具を適切に着用して意欲的に取り組んでいる。
評価方法	・機械操作技能審査 ・クリ等の栽培技術小テスト	・施業・栽培計画書 ・地域資源活用レポート	・安全規則の遵守状況 ・協働作業への貢献
総合実習」は専攻班ごとの到達度に基づき、A B C の3段階で評価を行います。 各学期末および学年末に各観点の評価を総括し、5段階で最終評価を行います。 評価には、記録簿の整理状況、提出物の期限遵守、実習における安全性と協働姿勢および成果物（作品・レポート・調査データ）の質を重視します。			

教 科	農 業	科 目	森林科学	単位数	2
学 年	3 年	教科書	森林科学		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 森林の目的に応じた更新や保育、間伐などの施業・管理技術を体系的に理解し、健全な森林を育成するために必要な専門的知識を習得します。 ② 木材の収穫システムや労働安全に関する知識を深めるとともに、森林資源の持続的な活用が地域社会の発展に果たす役割を科学的根拠に基づいて考察する力を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 森林の施業技術	・「生産林」と「環境林」それぞれの目的に適した更新や植生制御の方法を学びます。 ・枝打ちや間伐の意義と、森林の健全性に与える効果について科学的に理解します。
2	2 木材の収穫と労働安全	・効率的な木材収穫のための作業システムと路網（林道・作業道）労働安全の重要性と、関係法令に基づく安全管理を学びます。
3	3 森林の育成と活用の実践	・地域における森林活用の実態を調査し、森林資源の多面的・多角的な利用の在り方を考察します。 ・持続可能な森林経営に向けた将来の姿を、調査データに基づきレポートにまとめます。
課題	① 通常課題…毎時間のミニレポートに加え、各単元の内容に応じた復習ワークシートを作成します。 ② 夏休み課題…地域の森林施業事例に関する調査レポートを作成します。 ③ 冬休み課題…スマート林業の導入事例について、Web データ等を用いた調査学習を行います。 ④ 学年末課題…「持続可能な森林活用」をテーマに、将来のプランを提案書として作成します。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 森林の施業技術	更新、保育、間伐などの森林施業に関する専門用語や技術体系を理解している。	森林の状態に応じて、適切な施業時期や方法（間伐率等）を科学的に判断し表現できる。	森林の健全な育成に関心を持ち、施業による森林の変化を粘り強く調べようとしている。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・ミニレポート ・ワークシート	・ミニレポート ・授業への取組状況
2 木材の収穫と労働安全	木材収穫の作業システムや路網の規格、安全管理に関する法令を理解している。	地形や地質に応じた効率的な収穫システムや、安全な作業手順を論理的に考察できる。	労働安全の重要性を自覚し、事故防止のための知識習得に積極的に取り組んでいる。
評価方法	・定期考査 ・小テスト	・ミニレポート ・収穫計画作成レポート	・ミニレポート ・課題の提出状況

3 森林の育成と活用 の実践	森林資源の多様な活用 方法や、持続可能な管理 に必要な情報を理解して いる。	地域の森林課題に対 し、将来の活用法や保全 の在り方を多角的な視点 から提案できる。	地域の森林の将来像に ついて自ら課題を見つ け、解決に向けた情報収 集に努めている。
評価方法	・ 定期考査 ・ 小テスト	・ ミニレポート ・ 活用プラン提案書	・ ミニレポート ・ レポート作成状況
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点において A・B・C の 3 段階で評価を行い、学期末および学年末にはこれらを総括して 5 段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	森林経営	単位数	2
学 年	3 年	教科書	森林経営（実教出版）		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 森林の測定、計画と管理に必要な知識と技術を習得します。 ② 森林の機能と評価の意義を理解させ、森林を経営する能力と態度を身に付けます。 ③ 森林経営について、基礎的な知識と技術が活用できるように自ら学び、林業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養います。
------	--

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 森林経営とプロジェクト学習	・プロジェクト学習実施の意義・方法について理解し、実施に対する興味・関心と意欲を持ちます。
	2 世界と日本の森林	・世界と日本の森林を比較し、課題を見つけます。
2	3 森林経営の目標と組織	・森林経営の目標と組織について理解し、目標に向けた活動を理解します。
	4 森林の測定と評価	・森林の測定方法を理解し、評価します。
3	5 森林・林業の制度と政策	・森林・林業の制度を理解し、自分たちの生活のかかわりと結びつけます。
課題	夏休み・冬休み課題…森林の問題についてのレポート作成	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
森林経営とプロジェクト学習	プロジェクト学習の意義及び方法と進め方を理解している。	P－D－C－A サイクルを活用して、プロジェクト学習を行い、結果を考察できる。	プロジェクト学習に必要な情報収集と分析について、主体的かつ協同的に取り組もうとしている。
評価方法	・定期考査 ・ノート	・ノート ・定期考査	・ノート ・実習の取組状況
世界と日本の森林	世界と日本の森林について現状を理解している。	世界と日本の森林を比較し、課題を見出すことができる。	積極的に話し合いを行っている。
評価方法	・定期考査 ・ノート	・ノート ・定期考査 ・授業の取組状況	・ノート ・授業の取組状況
森林経営の目標と組織	森林経営の目標と組織について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	森林経営の目標と組織に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	森林経営の目標と組織について、持続可能な森林経営の考え方を基礎に具体的な森林を対象として自ら学び、主体的かつ協同的に取り組むことができる。

評価方法	・定期考査 ・ノート	・ノート ・定期考査	・ノート ・授業の取組状況
森林の測定と評価	森林の測定と評価について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	森林の測定と評価に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決できる。	森林の測定と評価について自ら学び、主体的かつ協同的に取り組むことができる。
評価方法	・定期考査 ・実習の取組状況	・定期考査 ・ノート	・ノート ・実習の取組状況
森林・林業の制度と政策	森林林業の制度と政策について理解することができる。	森林林業の制度と政策に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	森林林業の制度と政策について自ら学び、主体的かつ協同的に取り組むことができる。
評価方法	・定期考査 ・ノート	・ノート ・定期考査	・ノート
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B Cの3段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	林産物利用	単位数	2
学 年	3 年	教科書	林産物利用(実教出版)		
学 科	特用林産	副教材	なし		

学習目標	① 林産物の加工、利用に必要な知識と技術を習得します。 ② 林産物の特性を理解します。 ③ 林産物の多様な利用を図る能力と態度を育てます。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 木材の加工と利用	・合板と集成材の接着法を学びます。 ・手鋸の技術やスコヤの使い方を学び、正確な墨入れ、ほぞ加工の技術を学びます。 ・現場あわせ大切さを学びます。
2	2 木材の加工	・各自が課題を持って加工・組み立てを行い、接着の技術を学びます。 ・塗装の技術を高め、図面を読み取る力を学びます。 ・チェーンソーの仕組みを学びます。
3	3 木材加工の仕上げ	・合理的で正確な加工方法を学びます。 ・一人一人が考え、課題制作に取り組み技術を学びます。 ・草刈り機や林業機械の仕組みとメンテナンスを学びます。
課題	① 定期考査後に訂正をして提出。 ② 製作課題を提出。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
木材の加工と利用	合板と集成材の接着が理解できる。 手鋸の技術やスコヤの使い方を理解できる。	正確な墨入れやほぞ加工が材料や加工方法によって違うことを理解できる。	作業に集中し安全で正確な作業を心掛け、現場あわせの大切さを身に付けようとしている。
評価方法	・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・発表内容	・発表内容
木材の加工	木材の実質的な特性を理解し、接着や塗装の技術を身に付けることができる。	図面を正確に読み取り具現化できる力を身に付けることができる。 チェーンソーの仕組みを理解できる。	積極的に知識や技術を身に付けようとしている。 自らが良いものを作ろうとする気持ちが表れている。
評価方法	・定期考査 ・実技テスト	・定期考査 ・発表内容	・発表内容
木材加工の仕上げ	どうすれば合理的で正確な加工ができるか考えて実践できる。	機械の仕組みと安全な操作およびそのメンテナンスが理解できる。	自らが課題を設定しその製作ができ技術や正しい作業に心掛けることができる。

評価方法	・ 定期考査 ・ 実技テスト	・ 定期考査 ・ 発表内容 ・ 課題提出	・ 発表内容
内容のまとめりと、学習目標の到達度を基に、各観点においてABCの3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し成績を算出します。学年末には、各学科の評価により算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	地域資源活用	単位数	2
学 年	3 年	教科書	地域資源活用（実教出版）		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 地域資源の活用について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けます。 ② 地域資源の活用に関する課題を発見し、農業や農業関連産業にたずさわる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けます。 ③ 地域資源の活用について新たな価値の創造に寄与できるようみずから学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的にとり組む態度を養います。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 地域資源とその活用	・地域資源活用に関する学習の意義と役割を理解します。
	2 地域資源活用とプロジェクト学習	・地域資源活用についてプロジェクト学習を活用した学習展開を行います。
2	3 農山村社会の変化と地域振興	・農山村および都市の歴史や役割の変化について理解する。
	4 地域資源活用の意義と役割	・自然環境と人の活動がつくる農山村における環境・景観・文化特徴について理解します。
3	5 地域資源の価値と活用	・都市と農山村の共生や多面的機能の活用、連携等の実践例を自分たちの生活のかかわりと結び付けます。
課題	夏休み・冬休み課題…地域資源活用の問題についてのレポート作成	

評価の観点 評価基準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域資源活用とプロジェクト学習	プロジェクト学習の意義及び方法と進め方を理解している。	P-D-C-A サイクルを活用して、プロジェクト学習を行い、結果を考察できる。	プロジェクト学習に必要な情報収集と分析について、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価方法	・定期考査 ・ノート	・ノート ・定期考査	・ノート ・実習の取組状況
地域資源とその活用	都市と農山村の地域資源について現状を理解している。	都市と農山村を比較し、課題を見出すことができる。	積極的に話し合いを行っている。
評価方法	・定期考査 ・ノート	・ノート ・定期考査 ・授業の取組状況	・ノート ・授業の取組状況
農山村社会の変化と地域振興	地域資源活用の目標と組織について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	地域資源活用の目標と組織に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	地域資源活用の目標と組織について、持続可能性について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むことができる。

評価方法	・定期考査 ・ノート	・ノート ・定期考査	・ノート ・授業の取組状況
地域資源活用の意義と役割	農山村の特徴について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	農山村に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	農山村の特徴について自ら学び、主体的かつ協同的に取り組むことができる。
評価方法	・定期考査 ・実習の取組状況	・定期考査 ・ノート	・ノート ・実習の取組状況
地域資源の価値と活用	都市と農山村の共生について理解することができる。	都市と農山村の共生に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。	都市と農山村の共生について自ら学び、主体的かつ協同的に取り組むことができる。
評価方法	・定期考査 ・ノート	・ノート ・定期考査	・ノート
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	食用キノコ栽培	単位数	2
学 年	3 年	教科書	キノコ栽培全科（農文教）		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 食用キノコの栽培・利用方法、用途に関する知識、技術を身に付けます。 ② キノコ栽培に関する課題を発見し、農業関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を養います。 ③ 食用キノコ栽培について、基礎的な知識と技術が活用できるように自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協同的に取り組む態度を養います。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 キノコの菌床栽培	・キノコの菌床栽培について基礎的な知識を身に付けます。
2	2 菌床栽培（ビン） 3 菌床栽培（袋）	・キノコ栽培がどのように行われているのか理解し、興味・関心と意欲を持ちます。 ・菌床栽培に関連する技術を身に付けます。 ・栽培管理について科学的・合理的に判断し、生育段階や環境条件に応じた適切な対応をする能力を身に付けます。
3	4 キノコの活用方法	・自分たちの生活とキノコのかかわりについて考えます。
課題	① 夏休み課題…キノコかるたの作成 ② 冬休み課題…身の回りに生えているキノコのレポート	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
キノコの菌床栽培	キノコの菌床栽培について基礎的な知識を身に付けている。	キノコの菌床栽培について考えることができる。	集中して課題に取り組んでいる。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・授業プリント	・授業中の取組状況 ・課題の提出状況
菌床栽培（ビン）	菌床ビン栽培に適した種類や環境を理解している。	キノコに適した環境について考えることができる。	話し合いに積極的に参加できている。
評価方法	・定期考査	・定期考査 ・授業プリント	・授業中の取組状況 ・課題の提出状況
菌床栽培（袋）	菌床袋栽培に適した知識と技術を身に付けている。	種類ごとの栽培方法を考えることができる。	安全かつ積極的に参加している。
評価方法	・定期考査 ・実習	・定期考査 ・授業プリント	・実習
キノコの活用方法	キノコの活用方法について理解している。	新たな活用方法について考えることができる。	実習に積極的に参加している。

評価方法	・ 定期考査 ・ 実習	・ 定期考査 ・ 実習	・ 実習
内容のまとまりごとに、学習目標の到達度を基に各観点においてＡＢＣの３段階で評価を行います。各観点の評価を総括し、５段階で評価します。			

教 科	農 業	科 目	農業情報活用	単位数	2
学 年	3	教科書	農業情報活用（伊予農業高等学校）		
学 科	特用林産科	副教材	なし		

学習目標	① 文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェアなどを用いて、様々なデータを処理することができる能力を身に付けます。 ② 情報機器を駆使して、プログラミング学習に取り組む態度と能力を養います。
------	---

学期	単 元	学習内容・学習のねらい
1	1 生活の農業の情報化	- 生活の周りにある、情報通信機器や情報通信技術について学習し、その使用方法や役割について理解します。 - 情報セキュリティや情報モラルに関する基礎的、基本的な知識を身に付け、ネットワーク犯罪に対する予防ができるようにします。
	2 コンピュータによる情報の活用	文書処理ソフトウェアを使用して、ビジネス文書を作成し、応用的な文書処理能力を養います。
2		- 表計算ソフトウェアを使用して、データ処理方法を学習し、データ分析方法を身に付けます。 - 画像・図形処理ソフトウェアを使用して、効果的な文書を作る方法を学習します。 - プレゼンテーションソフトウェアを使用して、説得力のあるスライドの作成、プレゼン方法を学習します。
3	3 農業情報の活用	- 農業の情報化や情報の活用について理解します。 - 機器を用いたプロジェクト学習の計画を立てます。 - マクロとしてプログラミングを学びます。
課題	①予習・復習…授業ごとの課題をします。 ②夏休み課題…情報処理検定の課題をします。 ③冬休み課題…プレゼンテーションソフトウェアを用いた作品制作をします。	

評価の観点 評価規準	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活の農業の情報化	身の回りにある情報通信機器や情報通信技術について理解している。 情報セキュリティや情報モラルに関する知識を身に付けている。	情報通信機器を適切に使用できる。 ネットワーク犯罪に対する予防方法を理解し、それを実行することができる。	情報通信機器や情報通信技術について理解しようとしている。 情報セキュリティや情報モラルに関する知識を用いて、ネットワーク犯罪に対する予防をしようとしている。
評価方法	・小テスト ・ワークシートへの記入内容	・小テスト ・レポート、ノート記入 ・発問への応答等	・授業への取組 ・レポート ・発問への対応等
コンピュータによる情報の活用	文書処理ソフトウェアの使用方法を理解している。 表計算ソフトウェアの使用方法を理解している。	文書処理ソフトウェアを用いて、ビジネス文書を作成できる。 表計算ソフトウェアを用いて、データ分析がで	各種ソフトウェアを用いて、主体的に製品作成に取り組んでいる。

	る。 画像・図形処理ソフトウェアの使用方法を理解している。 プレゼンテーションソフトウェアの使用方法を理解している。	きる。 画像・図形処理ソフトウェアを用いて、効果的な文書を作成できる。 プレゼンテーションソフトウェアを用いて、効果的なスライドを作成できる。	
評価方法	・小テスト ・ワークシートへの記入内容	・実技テスト ・各種ソフトウェアを使用した作品制作 ・レポート ・発問への応答等	・授業への取組 ・実技テストへの取組 ・レポート ・発問への対応等
農業情報の活用	農業の情報化や情報の活用について理解している。 プログラミング学習としてマクロを理解している。	情報機器を用いて、プログラミングが組める。 情報通信機器を用いたプロジェクト学習の計画を立てることができる。	農業の情報化や情報の活用について理解している。 情報機器を用いたプロジェクト学習の計画を協働的に立てることができる。
評価方法	・小テスト ・ワークシートへの記入内容	・ワークシートマクロの内容 ・ノート記入 ・発問への応答等	・授業への取組 ・レポート ・発問への対応等
内容のまとめりとともに、学習目標の到達度を基に各観点においてA B C の3段階で評価を行います。学期末には各観点の評価を総括し、成績を算出します。学年末には、各学期の評価より算出した各観点の評価を総括し、5段階で評価します。			